令和5年度 事業報告

一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構

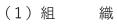


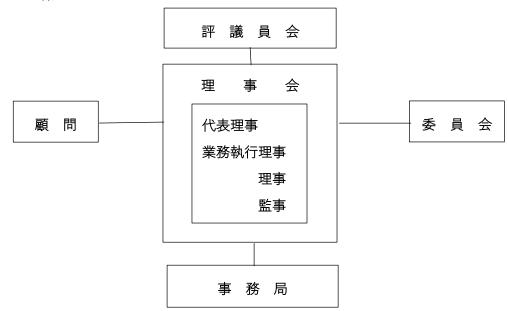
目 次

令和5年度 事業報告

- 1 令和5年度 一般報告
 - (1)組 織(評議員、役員、顧問、委員会、事務局)
 - (2) 賛助会員
 - (3)会議等
 - (4) その他
- 2 令和5年度 事業報告
 - (1)情報発信・広報に関する事業
 - (2) 啓発活動に関する事業
 - (3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業
 - (4) 伝承に関する事業
 - (5) その他(受託事業)

1. 令和5年度 一般報告





ア 評議員

役	職	常勤・	非常勤力	別	氏			名	勤	務	先	及	び	役	職	名
評 諱	義 員	非	常	勤	増	子	次	郎	一般	社団活	去人東	北経済	f連合?	会 会	長	
評諄	兔 員	非	常	勤	藤	崎 :	E 郎	助	東北	六県福	第工会	議所連	合会	会長		
評諄	轰 員	非	常	勤	千	葉	嘉	春	東北	建設第	Ě協会 :	連合会	会	<u> </u>		
評 諱	轰 員	非	常	勤	渥	美	雅	裕	一般	社団法	去人東	北地垣	がくり	り協会	理	手長

イ 理事・監事

· -	」	皿于								
役		職	常勤	・非常	勤別	氏			名	勤務先及び役職名
代 表	理	事	非	常	勤	今	村	文	彦	東北大学災害科学国際研究所所長
業務執	丸行理	事	常		勤	原	田	吉	信	一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構
理		事	非	常	勤	涌	井	史	郎	東京都市大学 特別教授
理		事	非	常	勤	片	岡	俊	_	弘前大学 教授
理		事	非	常	勤	南	Ī	E	昭	岩手大学 教授
理		事	非	常	勤	小	沢	喜	仁	福島大学 教授
理		事	非	常	勤	徳	ЩE	3 出	男	政策研究大学院大学 客員教授
理		事	非	常	勤	紺	野	純	_	一般社団法人東北観光推進機構 理事長
理		事	非	常	勤	中	村	浩	彰	一般社団法人日本旅行業協会東北支部長
理		事	非	常	勤	永	澤	親	兼	青森県県土整備部長
理		事	非	常	勤	佐	藤	隆	浩	岩手県復興局長
理		事	非	常	勤	千	<u> </u>	葉	章	宮城県震災復興・企画部長
理		事	非	常	勤	五	月 3	女 有	良	福島県企画調整部長
理		事	非	常	勤	梅	P	勺	淳	仙台市まちづくり政策局長
監		事	非	常	勤	松	岡	基	嗣	日本政策投資銀行 東北支店長
監		事	非	常	勤	細	í	谷	隆	河北新報社防災・教育室 部長

ウ 顧 問

/ 作六	ריין										
役	職	職				名		氏		名	
顧	問	青	森	県	知	事	宮	下	宗	_	郎
顧	問	岩	手	県	知	事	達	増		拓	也
顧	問	宮	城	県	知	事	村	井		嘉	浩
顧	問	秋	田	県	知	事	佐	竹		敬	久
顧	問	山	形	県	知	事	吉	村	美	栄	子
顧	問	福	島	県	知	事	内	堀		雅	雄
顧	問	仙	台		市	長	郡		和		子
顧	問	学者	邓仙台:	コンソ	- シアムミ	会長	大		野		勲

顧	問	東	北	地	方	整	備	局	長	山	,		巧
顧	門	東	北	Ĺ	運	輸	F	計	沖	石	谷	俊	史

工 委員会

		<u></u> 伝承ロードアドバイザリー委員会				
役	職	職名		氏	名	
委	員 長	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐	藤	翔	輔
委	員	一般社団法人東北観光推進機構 理事長	紺	野	純	
委	員	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部長	毌	村	浩	彰
委	員	青森県県土整備部の都市計画課長	澤	里	秀	典
委	員	岩手県復興防災部の復興推進課総括課長	北	島	太	郎
委	員	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課長	樋	П		保
委	員	福島県土木部 土木企画課長	和	知		聡
委	員	仙台市まちづくり政策局 震災復興メモリアル事業担当課長	田	中	智	洋
委	員	東北地方整備局 企画部長	包	本	健	也
委	員	東北運輸局 観光部長	長	澤	秀	博

オ 事務局

住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町三丁目 2-26
人員	業務執行理事1名、職員4名 計5名

(2) 賛助会員

	É	会 員 数		口数			
区分	令和5年度	令和4年度	増減	令和5年度	令和4年度	増減	
法人会員	42	20	増 22	63	29	增 34	
個人会員	101	94	増7	229	211	増 18	

(3)会議

ア 評議員会

区分	開催日、開催場所	議事の内容
第1回臨時	令和5年5月8日	【第1号議案】理事と監事の選任
	(みなし評議員会)	理事4名、監事1名の更新手続き
第1回定時	令和 5 年 6 月 21 日	【第1号報告】令和4年度 事業報告
	ホテルモントレ仙台	(1) 一般報告
		(2) 事業報告
		【第2号報告】令和5年度 事業計画及び収支予算書
		(1)事業計画
		(2)収支予算書
		【第3号報告】令和5年度 異動に伴う理事・監事の選
		任
		【第1号議案】令和4年度 計算書類の件について
		(1) 財務諸表
		(2) 監査報告
		【第2号議案】評議員選任の件
		【第3号議案】役員(理事・監事)の件

イ 理事会

区分	開催日、開催場所	議事の内容
第1回	令和5年6月14日	【第1号議案】 令和4年度事業報告及び計算書類の件
	メトロポリタン仙台	【第2号議案】 顧問の委嘱について
		【第1号報告】 異動に伴う理事・監事後任の選任について
第2回	令和6年3月27日	【第1号議案】令和6年度 事業計画
	ハーネル仙台	【第2号議案】令和6年度 収支予算書
		【報告事項】財政基盤について

ウ 委員会等

1. 伝承ロードアドバイザリー委員会

区分	開催日、開催場所	議事の内容
第1回	令和5年5月17日	(1)伝承ロード研修会 アンケート結果
	ホテルモントレ仙台	(2) 東北地方整備局 震災伝承の取組
		(3)東北運輸局 観光地域づくりの施策
		(4) 震災伝承施設の来館者状況
		(5)その他(情報提供)

2. その他

機構が主催した主な会議やイベントは下記のとおり。

開催日、開催場所	野知 百日	概要等
用作口、 用作物	取組項目	概要等
1) 令和5年4月19日	3.11 伝承ロード	概要:三陸沿岸を対象にした
ハーネル仙台	New Destination プラン	・モデルツアールートの考え方
	第3回「三陸沿岸道路エリア活性	と設定
	化検討会」	・モニターツアーの募集
		・今後のスケジュール
2) 令和5年4月24日	第6回「映像アーカイブ事業」	概要:映像アーカイブ事業の第7
NTT 東日本青葉通ビル	映像試写会及び認定証交付式	回目の認定作品 1 本の試写会と
1F スマートイノベーシ		認定証交付式を実施
ョンギャラリー		○第 010 号認定作品
		野村建設(株)
		宮城県山元町
		 「日常を取り戻せ
3) 令和5年7月6日	第7回「映像アーカイブ事業」	概要:映像アーカイブ事業の第7
コラッセふくしま	映像試写会及び認定証交付式	回目の認定作品 1 本の試写会と
		認定証交付式を実施
		○第 011 号認定作品
		石川建設工業(株)
		福島県南相馬市
		「緊急復旧工事を阻むもの〜放
		射線との闘い~」
		_

4) 令和5年10月16日	令和5年度インフラ語り部説明会	概要:建設関係業務に従事した
仙都会館	参加者数 語り部希望者 22名	役所や企業の OB を対象に東日
		本大震災の復旧・復興等におけ
	 来賓:国土交通省東北地方整備局	る貴重な体験や知見を語り継ぐ
	宮本企画部長	インフラ語り部の確保を目的と
	_ , , .	した説明会
		○説明事項
		・3.11 伝承ロード推進機構の活
		動について
		 ・語り部 (インフラ部門) の活動
		について
		・ 今後の活動
5) 令和 5 年 10 月 26 日	 防災・伝承セミナーin 青森	概要:「災害伝承と観光」をテー
八戸市公会堂文化ホー	 参加者数 会場約 200 名	マに開催
ル	オンライン約 220 名	○挨拶 宮下宗一郎青森県知事
	合計 約 420 名	○基調講演
		演題「災害を 100 年後に伝え
		る」弘前大 片岡俊一先生
		○パネルディスカッション
		テーマ「災害伝承と観光」
		・コーディネーター
		東大 三重野先生
		・パネラー
		八戸市長 熊谷雄一氏
		みなと体験学習館長 前澤時
		廣氏
		(株)AC プロモート代表 町田
		直子氏
		3.11 伝承ロード推進機構
		原田吉信
6) 令和5年10月31日	インフラ語り部現地研修会	概要:語り部の実戦に向けて、実
東松島市		際に語り部の話を聞く現地セミ
	語り部 14名 参加	ナーを開催した。
		○語り部
		SAYS'東松島
		語り部 山縣嘉恵

7) 令和6年2月20日	3.11 伝承ロード	概要:
ハーネル仙台	New Destination プラン	・モニターツアーの結果
	第4回「三陸沿岸道路エリア活性	① 旅行業者
	化検討会」	② 台湾教育関係者
		・Web アンケート結果
		・今後のスケジュール

(4) その他(寄付金の受入について)

次の法人等から寄付金によるご支援をいただきました。

令 和 5 年 度	主な法人等
	(一社)日本橋梁建設業協会
寄付金	外 10 法人(団体を含む)
	ヤフーネット募金

2. 令和5年度 事業報告

(1) 情報発信・広報に関する事業

イ ホームページの充実・強化

ホームページは、組織発足直後の令和元年9月に立ち上げ、より見やすくわかりやすく、多くの方に視聴できるように、令和2年度に英語版やスマートフォン対応や Facebook の開設を行った。令和3年度においては、archive や movieサイトの追加とともに、コロナ禍における震災伝承施設の閉館情報などタイムリーな情報提供に努めた。令和4年度では映像アーカイブ事業の映像紹介、ラジオ放送の音声アーカイブ、機関誌等のコンテンツの充実を図った。令和5年度ではNew Destinationプラン等のサイトの充実を図った。

ロ 伝承ロードマップの更新等

伝承ロードマップは、震災伝承ネットワーク協議会による震災伝承施設の追加を踏まえ10月に更新を行い、震災伝承施設等のニーズに応えた。また、英語版の更新も行い、発行部数は合わせて7万部程度になった。配布先は震災伝承施設だけでなく、道の駅、観光拠点、4県の東京アンテナショップなど様々な場所に発送している。

第3分類震災伝承施設や食や祭り等の観光資源をイラスト化した県別のマップは、被災地への訪問機会の増加と滞在期間を長くする狙いで令和3年度に作成しているが、これについても施設数の増加に対応して更新を行った。各県毎のバラツキはあるものの合計で8万部の発行を行った。

ハ 機関誌、メルマガの発行 他

機関誌は、「人と人を繋ぎ、被災地を結ぶ。」ことを狙いとして、人から人へ伝える「縁」が大切との観点から、人の縁を中心に据えて、震災伝承施設の取り組みや、伝承活動を紹介する機関誌を令和3年12月に刊行した。以後年4回の季刊紙として発行している。配布先は、震災伝承施設、賛助会員、寄付者、道の駅、

東北6県の東京アンテナショップ等に3千部配布している。

メルマガについては、当機構の取り組みや伝承活動の紹介として、伝承ロード 研修会、防災・伝承セミナーやパネル展等の状況などを、機構関係者、賛助会員、 寄付者、語り部等約300人に対して配信している。

ニ ラジオによる広報活動

令和3年度からラジオを活用した広報を実施している。目的は東日本大震災の風化防止の観点から東日本大震災の真実や教訓を振り返る番組を作成し、被災4県(青森、岩手、宮城、福島)のラジオリスナー向けに放送している。

令和5年度は、震災後の復旧・復興工事における地元建設業者の体験・苦労について、ナビゲータとの対話形式で振り返り、地元建設業者の社会貢献を明らかにすることを狙いとして、「伝承ロード~未来の轍~」と題して放送した。放送した建設業者は岩手県2社、宮城県2社、福島県1社の計5社で、2月の第2週から3月第1週まで5回の番組を放送した。

(2) 啓発活動に関する事業

イ 防災・伝承セミナーの開催

3.11 伝承ロードの取り組みや震災伝承の意義や役割を広く伝えるために、令和2年度から被災4県持ち回りで防災・伝承セミナーを開催している。令和5年度は第4回目として、10月26日(木)に青森県八戸市公民館(公会堂文化ホール)を会場に開催した。コロナ禍の影響を考慮し、オンラインでも視聴可能とした。会場約200名、オンライン約220名の合計420名もの聴講者があり、盛況だった。

ロ パネル展の実施

3.11 伝承ロードの周知と理解促進とともに、東日本大震災の記憶や経験を忘れずに後世に伝承するため、東日本大震災の実情と教訓等を紹介するパネル展を震

災伝承施設や他の記念館等で実施した。

令和5年度は令和6年2月に東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」で1ヶ月間展示するなど、被災3県の他、山形県を含め7箇所で展示し、延べ92日間のパネル展示を行った。

ハ イベント等のブース出展

○仙台防災未来フォーラム 2024

令和6年3月9日(土)に仙台国際センター展示棟を会場に、テーマを「仙台 枠組み折り返し、みんなでできる防災(ごと)」として仙台市が主催した。来場者 数は全体で約4,100人、出展ブース72団体が行った。

展示は、「3.11 伝承ロード」の取り組みを紹介するとともに、震災伝承施設を紹介した。また、災害直後に建設業界が果たした復旧・復興事業の様子を可視化した「映像アーカイブ事業」作品を上映した。

ニ みやぎ災害伝承ポスターコンクール支援

この企画は宮城県が過去の災害の記憶と教訓に触れ、災害時に命を守る行動が とれることを目指して、令和4年から実施しています。

令和5年度は広く県内より、児童・生徒から応募があり、10月に審査会が行われ、入賞作品が決定しました。3.11 伝承ロード推進機構は本企画に共催し、最優秀賞に準ずる「特別賞」を選定しました。入賞作品は、令和5年12月18日(月)~令和5年12月22日(金)に、宮城県庁2階に展示されました。

(3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業

イ 企業・団体向けの伝承ロード研修会の実施

東日本大震災の被災地にある震災伝承施設や復興状況等を巡り、震災の実情や 教訓を学ぶ企業・団体向けの研修を令和元年度から伝承ロード研修会として実施 しているが、令和5年度は32件の研修会を実施した。参加人数も730名と昨年 の1.8倍と増え、アンケートによる満足度も81.8%と高い値を維持している。

ロ 旅行業者との連携

旅行業者の知恵やノウハウを活用し、震災伝承施設への入場者数の増加を図るため、仙台市内の旅行業者等で構成する「伝承ツーリズム連絡会」を令和2年度から行っている。

令和5年度は6月と2月の2回開催し、令和4年度に実施した伝承ロード研修会アンケート調査結果や、5年度に実施した観光庁「観光コンテンツ造成事業」の東松島伝承ロードバス事業や(一財)国土計画協会の受託事業の「3.11 伝承ロード New Destination プラン」を紹介し、意見交換を行った。

ハ 台湾における訪日プロモーション事業

これまで、台湾の旅行業者や教育関係者をターゲットとして、令和 2~3 年度は震災伝承施設や復興インフラ、周辺の観光施設などを紹介した。合わせて、プロモーション映像作成、メディアや旅行会社を招請したツアーの実施、オンラインによる現地セミナーを開催するなどの訪日プロモーション事業を行った。

令和4年度は、東北6県と新潟県等主催の「日本東北遊楽日」イベントに合わせ、台北市の高校5校、旅行業社5社に震災伝承施設等を紹介するセールスコールを実施。加えて、BtoB商談会に参加し、旅行会社に震災伝承施設等を紹介した。

令和5年度においては、9月に台北市教育委員会と4校の先生5名を震災伝承施設等の招請旅行を3泊4日で実施した。また、12月には「日本東北遊楽日」イベントに合わせて、台中市の高校6校を訪問し、震災伝承施設のセールスコールを行った。さらに、「日本東北遊楽日」開催前日のBtoBセミナー・商談会に参加し、3.11 伝承ロードのプロモーション活動を行った。

(4) 伝承に関する事業

イ 東日本大震災 10 周年企画 映像アーカイブ事業

令和2年度から震災の記憶・記録の見える化の一環として、東日本大震災の復旧・復興で活躍した建設業界の働きを震災のレガシーとして残すために「映像アーカイブ事業」を行っている。震災直後の道路啓開や津波の排水作業などは、警察・消防の人命救助以前の緊急作業として行い、孤立した避難所への緊急物資の輸送にも大きな貢献を果たした。また、過去に例を見ないスピードで復旧・復興事業に尽力した建設業界の働きは、様々な知見や技術を駆使して行ったもので、震災から10周年という節目を契機に、これらの活動を可視化し、映像に編集し建設業界の社会貢献を明らかにする事業である。

令和5年度は2本の映像を作成し、試写会及び認定証交付式を2回行った。

ロ 小中学校向けの防災学習(出前授業)

(公財)東北活性化研究センター主催による TOHOKU わくわくスクール 2023 出前授業を活用し、防災教育の一環として、小学校 2 校から当機構で提供している防災教育プログラムへの申し込みがあり、出前授業を行った。

【授業の概要】

①11月9日(木)新潟県上越市立南本町小学校5年生34名

語り部:武山ひかるさん(東松島市)

②11 月 15 日(水)岩手県盛岡市立太田東小学校 5 年生 55 名

語り部:菊池のどかさん(釜石市)

授業では、はじめに語り部さんのお話を聞き、その後、グループワークで今住 んでいる地域に災害が起こった時、自分たちにできることを話し合い発表しまし た。最後には、各自で災害時に利用できる新聞スリッパを作って履いてもらった。

ハ インフラ語り部

東日本大震災における震災対応とその後の復旧・復興の体験、災害時おける復旧等の経験等を語り継ぐため、企業や行政等の OB を対象としたインフラの語り部制度を平成2年度構築し、伝承ロード研修会等において活用している。

これまで70名が登録し、実績として、令和2年度2回、令和3年度4回、令和4年度2回、令和5年度1回の研修会で活用している。

一方、スキルアップのために、令和 5 年度も東松島市の伝承施設等において、 実際に語り部の話を聞く現地セミナーを開催した。

(5) その他事業(受託事業等)

イ 「3.11 伝承ロード New Destination プラン」(一財)国土計画協会支援事業

この事業は東日本大震災からの10年を契機に、新たな復興ステージのアクションとして「三陸沿岸道路(=青森県八戸市から宮城県仙台市までを結ぶ全359kmの高規格道路)を活用して、各地の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させ、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化を図る」事業で、三陸沿岸地域の新たな観光ルート開発に向け、より価値の高いコンテンツと周遊プログラムのあり方を模索し、持続可能な事業環境のあり方を検討しながら、官民(旅行事業者、地元観光関連事業者、当該自治体等)連携による環境づくりを強化するために、①新たな周遊ルート開発可能性調査、②モデルルートでのモニターツアーの実施、③三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信の3つを実施することにしている。

令和5年度においては、①新たな周遊ルート開発可能性調査を進めるための三陸沿岸道路エリア活性化検討会を2回開催し、モデルコースの設定と旅行業者モニターツアーを実施、Webによる震災伝承施設に対するニーズ調査を実施した。

ロ 「東松島伝承ロードツアー」観光庁観光コンテンツ造成事業補助採択事業

東松島市野蒜地区は東日本大震災で甚大な津波被害を受け、多くの教訓が生まれた。それを伝える震災復興伝承館も被災地の中でいち早く整備した。加えて高台移転の復興事業である野蒜ヶ丘団地を迅速に行い、未来に向けた町づくりを行った。これらを周遊プログラムとして、インバウンド向けにコンテンツ化を図り、観光需要を創出し、震災の教訓など学びの深い伝承ロードツアーを構築した。

主な取組として、昨年造成した復興ストーリーの3本とアーカイブ映像の英語化作成、モニターツアーの実施、WEBサイトを構築し商品の販売を旅行事業者と連携し、実施した。